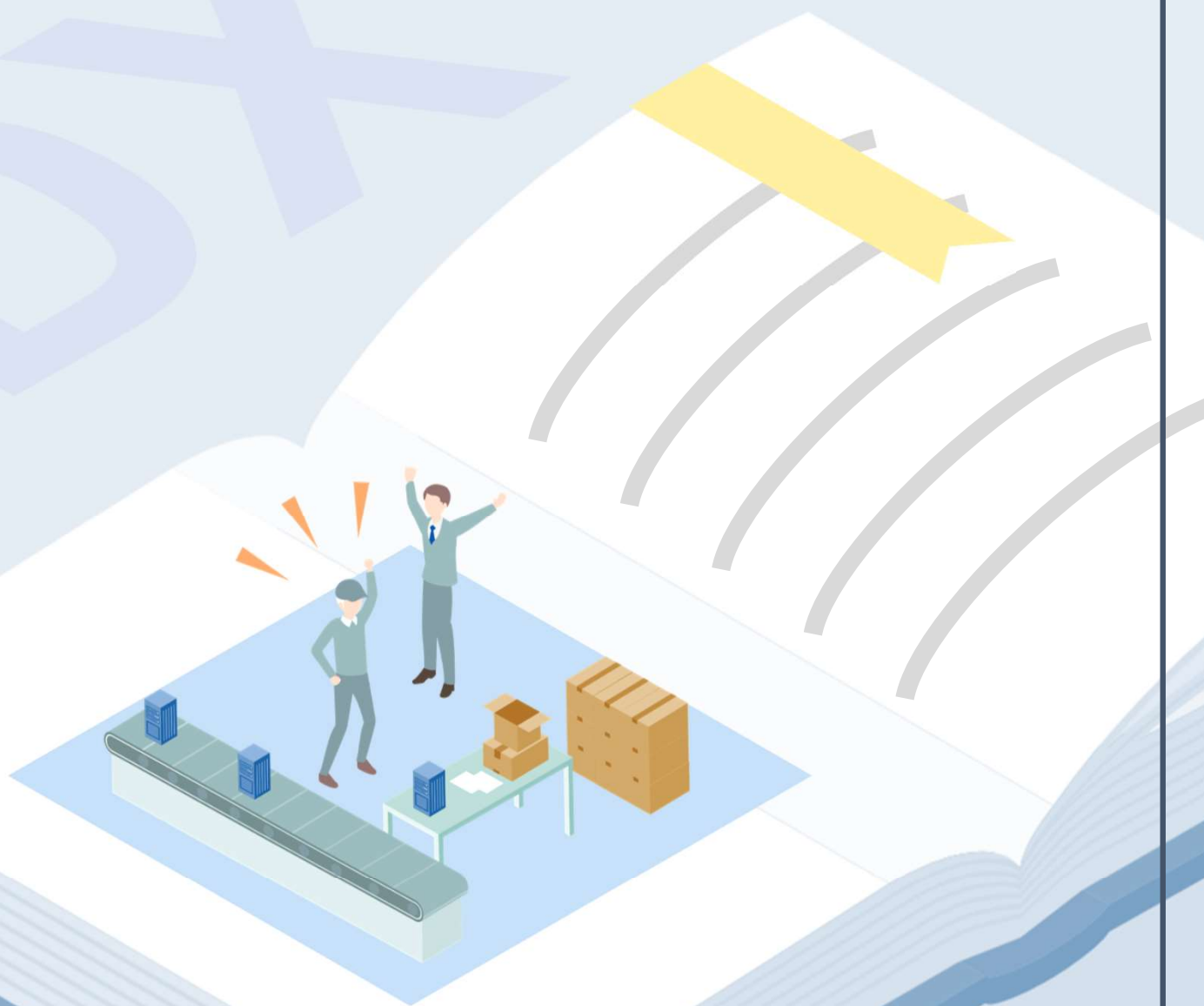


生産性向上支援訓練

活用事例集

VOL.

10



／らしく、はたらく、ともに／

JEED

Contents

生産性向上支援訓練とは / 受講の流れ	01
Courses —— 生産性向上支援訓練 選べる134コース	02
生産性向上支援訓練活用事例	03

case

01	🔑 DX, バックオフィス, データ活用, 情報発信 体系的な研修でスキルアップ意欲向上!	【宮城】 株式会社スタッフサービス・エンジニアリング事業本部 様	…03
02	🔑 DX, バックオフィス 訓練で学んだツールを活用し業務時間削減!	【福島】 東芝プレジジョン株式会社 様	…05
03	🔑 DX, バックオフィス, 組織マネジメント, データ活用, 倫理・セキュリティ 実務に直結する訓練で業務効率がアップ!	【千葉】 みどり産業株式会社 様	…07
04	🔑 DX, バックオフィス, 組織マネジメント, 営業・販売 従業員の意識が変わる社内DXが促進された!	【神奈川】 株式会社バガシステム 様	…09
05	🔑 生産管理, 品質保証・管理 生産管理の基本が定着し、業務が効率化!	【山梨】 株式会社アスクテクニカ 様	…11
06	🔑 DX, マーケティング, 組織マネジメント, 営業・販売 従業員の意識改革により売り上げアップ!	【三重】 株式会社三重アロー 様	…13
07	🔑 生産管理, 組織マネジメント ムリ・ムラ・ムダを減らして業務効率化!	【広島】 株式会社イー・アール・ジャパン 様	…15
08	🔑 DX, バックオフィス, 情報発信 AIの効果的な活用で作業時間短縮!	【香川】 株式会社香川県中央自動車学校 様	…17
09	🔑 組織マネジメント 業務の優先順位が明確になり、仕事が効率化!	【大分】 トーショー九州株式会社 様	…19
10	🔑 DX, 生産管理 働き方の変革がDX化の本質だと気づいた!	【鹿児島】 株式会社高山産業 様	…21

生産性向上人材育成支援センター設置施設一覧	23
-----------------------	----

生産性向上支援訓練とは？

生産管理、IoT・クラウド活用、組織マネジメント、マーケティング、データ活用など、あらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムにより、中小企業等が生産性を向上させるために必要な知識・スキルを習得するための訓練です。

70歳までの就業機会の確保に資する中高年齢層向けの訓練コース(ミドルシニアコース)や、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に資する人材の育成を支援する訓練コース(DX対応コース)も実施しています。

生産性向上支援訓練では、中小企業等が抱える課題やご要望に応じてカリキュラムをカスタマイズするオーダーコースと、地域の中小企業等に共通する課題に対応したオープンコースを、専門的知見を有する民間機関等に委託して実施します。

訓練実施形式	・集合形式 ・オンライン形式(同時双方向通信) ・サブスクリプション形式	訓練実施場所	企業の自社会議室 等 (利用事業主の要望に基づき設定)
訓練時間数	6～30時間 (「IT業務改善」は4～30時間)	受講料 (1人あたり・税込)	3,300～6,600円 (「IT業務改善」は2,200～4,400円) ※訓練時間により変動

訓練受講までの流れ(オーダーコースの場合)

01 課題や方策の整理 担当者が企業を訪問し、人材育成に関する課題や方策を整理します。

02 訓練コースのコーディネート 相談内容を踏まえて、課題やニーズに応じた訓練コースを提案します。

- ・RPAを活用して業務を自動化したい。
- ・テレワークを導入して業務を効率化したい。
- ・現場の課題を発見し、改善する方法を学びたい。

A 生産・業務プロセスの改善

生産管理、品質保証・管理、流通・物流、バックオフィス

- ・従業員の仕事の効率化を促進したい。
- ・リスクを低減させる方法を学びたい。
- ・ベテラン従業員の技術を後輩に継承させたい。

B 横断的課題

組織マネジメント、生涯キャリア形成

- ・顧客満足度の向上を図りたい。
- ・消費者の動向を営業に活用したい。
- ・インターネットを活用して販売促進を図りたい。

C 売上げ増加

営業・販売、マーケティング、企画・価格、プロモーション

- ・データ集計の作業を効率化したい。
- ・マクロを使って定型業務を自動化したい。
- ・集客につながるHPを作成したい。

D IT業務改善

ネットワーク、データ活用、情報発信、倫理・セキュリティ

※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。

コース一覧は次ページへ ▶▶

03 訓練受講 所定の期日までに受講料の支払い等の手続きを行い、訓練を受講します。



生産性向上支援訓練の訓練コースは、企業の生産性向上を実現するために、4つのカテゴリ（訓練目的）に分類されています。各コースの三桁の数字は、カリキュラム番号を示します。

A 生産・業務プロセスの改善

- 048 ものづくりの仕事のしくみと生産性向上
- 001 生産性分析と向上
- 002 生産現場の問題解決
- 003 生産性向上のための課題とラインバランス
- 004 生産計画と工程管理
- 005 サービス業における I E 活用
- 129 製造分野における DX 推進
- 006 原価管理とコストダウン
- 007 在庫管理システムの導入
- 134 在庫管理の進め方
- 008 購買・仕入れのコスト削減
- 009 POS システムの活用技術
- 010 品質管理基本
- 011 品質管理実践
- 053 サービスマネジメントによる品質改善と向上
- 015 3PL と SCM
- 016 物流の IT 化
- 013 流通システム設計
- 014 物流システム設計
- 012 卸売業・サービス業の販売戦略
- 017 SCM の現状と将来展望
- 018 クラウド活用入門
- 019 IoT 活用によるビジネス展開
- 020 クラウドを活用したシステム導入
- 021 IoT 導入に係る情報セキュリティ
- 054 クラウドを活用した情報共有能力の拡充
- 087 導入コストを抑えるクラウド会計・モバイルPOSレジ活用
- 083 テレワークを活用した業務効率化
- 088 テレワーク活用
- 130 経理業務の効率化につながる DX の実践
- 056 IT ツールを活用した業務改善
- 089 データ活用で進める業務連携
- 090 失敗しない社内システム導入
- 091 企業内で IT 活用を推進するために必要な技術理解
- 092 企業内で IT 活用を推進するために必要なマネジメント
- 117 DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
- 118 ベンダーマネジメント力の向上
- 093 IT 新技術による業務改善
- 094 AI（人工知能）活用
- 132 生成 AI の活用
- 095 ビッグデータ活用
- 055 RPA を活用した業務効率化・コスト削減
- 096 RPA 活用
- 119 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- 120 データサイエンス入門
- 131 GX（グリーントランスフォーメーション）の推進
- 133 Python を活用した事務業務の効率化
- 037 企業価値を上げるための財務管理

B 横断的課題

- 022 IoT を活用したビジネスモデル
- 084 ダイバーシティ・マネジメントの推進
- 121 ビジネスと SDGs（持続可能な開発目標）の融合
- 038 事故をなくす安全衛生活動
- 023 個人情報保護と情報管理
- 064 高齢労働者のための安心・安全な職場環境の構築
- 039 リスクマネジメントによる損失防止対策
- 059 災害時のリスク管理と事業継続計画
- 040 e ビジネスにおけるリーガルリスク
- 057 ネット炎上時のトラブル対応
- 024 ナレッジマネジメント
- 025 知的財産権トラブルへの対応（1）
- 026 知的財産権トラブルへの対応（2）
- 058 現場社員のための組織行動力向上
- 041 業務効率向上のための時間管理
- 062 顧客満足度向上のための組織マネジメント
- 060 企画力向上のための論理的思考法
- 042 成果を上げる業務改善
- 043 組織力強化のための管理
- 061 職場のリーダーに求められる統率力の向上
- 051 管理者のための問題解決力向上

- 044 プロジェクト管理技法の向上
- 052 プロジェクトマネジメントにおけるリスク管理
- 065 継続雇用者のキャリア形成と管理者の役割
- 085 従業員満足度の向上
- 086 ストレスチェック制度を用いた職場環境改善と生産性向上
- 097 ムダを発見するための業務プロセスの見える化と業務改善
- 122 テレワーク業務における労務管理
- 126 DX 人材育成の進め方
- 127 物流現場のリーダー育成
- 128 ファシリテーションを活用した合意形成の効率化
- 066 中堅・ベテラン従業員のためのキャリア形成
- 067 チーム力の強化と中堅・ベテラン従業員の役割
- 068 後輩指導力の向上と中堅・ベテラン従業員の役割
- 069 中堅・ベテラン従業員による組織の活性化のための相談技法
- 070 SNS を活用した相談・助言・指導
- 071 フォロワーシップによる組織力の向上
- 072 経験を活かした職場の安全確保（未然防止編）
- 073 経験を活かした職場の安全確保（対策編）
- 074 クラウドを活用したノウハウの蓄積と共有
- 075 職業能力の整理とノウハウの継承
- 076 職業能力の体系化と人材育成の進め方
- 077 経験に基づく営業活動の見える化と継承
- 078 効果的な OJT を実施するための指導法
- 079 ノウハウの継承のための研修講師の育成
- 080 作業手順の作成によるノウハウの継承
- 081 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（実施編）
- 082 若手従業員に気づきを与える安全衛生活動（点検編）

C 売上げ増加

- 049 提案型営業手法
- 063 ビジネス現場における交渉力
- 050 提案型営業実践
- 027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- 028 統計データ解析とコンセプトメイキング
- 123 オンライン営業技術
- 029 顧客分析手法
- 045 顧客満足向上のための CS 調査とデータ分析
- 030 実務に基づくマーケティング入門
- 031 マーケティング戦略概論
- 032 マーケット情報とマーケティング計画（調査編）
- 033 マーケット情報とマーケティング計画（販売編）
- 046 インターネットマーケティングの活用
- 034 製品・市場戦略
- 035 新サービス・商品開発の基本プロセス
- 036 プロモーションとチャネル戦略
- 047 チャンスをつかむインターネットビジネス

D IT業務改善

- 098 ワイヤレス環境に必要な無線 LAN とセキュリティ
- 099 社内ネットワークに役立つ管理手法
- 100 表計算ソフトを活用した業務改善
- 101 業務に役立つ表計算ソフトの関数活用
- 102 表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化
- 103 効率よく分析するためのデータ集計
- 104 ビットテーブルを活用したデータ分析
- 105 品質管理に役立つグラフ活用
- 106 表計算ソフトを活用した統計データ解析
- 107 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
- 108 データベースを活用したデータ処理（基本編）
- 109 データベースを活用したデータ処理（応用編）
- 110 データベースを活用した高度なデータ処理
- 111 業務効率を向上させるワープロソフト活用
- 112 相手に伝わるプレゼン資料作成
- 113 集客につなげるホームページ作成
- 114 SNS を活用した情報発信
- 124 オンラインプレゼンテーション技術
- 115 脅威情報とセキュリティ対策
- 116 情報漏えいの原因と対応・対策
- 125 テレワークに対応したセキュリティ対策

case
01

株式会社スタッフサービス・エンジニアリング事業本部 様

DX

バックオフィス

データ活用

情報発信

基本情報

所在地 宮城県仙台市ほか 従業員数 - 名
事業内容 人材派遣/紹介予定派遣/人材紹介/業務請負 等



訓練利用のきっかけと成果

Before



実践的な研修の不足によるスキル停滞

ハンズオン形式※の研修を求める声が多かったものの、
スキルニーズを把握し切れず、研修設計が困難

※ハンズオン形式…実際に手を動かして行う体験型の学習方式

After

業務理解促進とスキルアップ意欲の向上

- ・事務系ソフトウェアの活用法を体系的に学習したことで、職場全体の作業改善や情報共有が効率化
- ・業務上必要なスキルの理解度が上がることで、スキルアップに対して前向きな従業員が増えた



JEEDの提案

- ✓ 基礎から応用への流れを意識したコース体系を構築
- ✓ 操作時間を十分に確保し、理解度を重視

■ コース名

- 096 RPA 活用
- 103 効率よく分析するためのデータ集計
- 108 データベースを活用したデータ処理 (基本編)
- 112 相手に伝わるプレゼン資料作成

■ 実施時期

令和7年5月～9月



事業主の声

実践型研修の導入で、顧客満足度と学習内容の定着度が向上！

当社の派遣エンジニアから「動画による研修だけでなく、ハンズオンで学習したい」という要望が多数ありました。未経験からエンジニアに挑戦する方も多いことから、派遣先企業様からも「さらなるスキルアップのために、派遣元でも研修機会があると嬉しい」との声が寄せられていました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、生産性向上支援訓練の受講が中断していましたが、再検討の際に、ハンズオンで学べる環境やカリキュラムをカスタマイズできる点をご説明いただき、当社の希望と合致したため再び受講に至りました。

実際にPCを操作しながら学べることや、その場で疑問を解消できることから、参加者の満足度は高く、業務での活用方法や将来のキャリアイメージが明確になり、学ぶ意欲が向上しています。

訓練の活用を通して、派遣エンジニアや取引先企業が求めるスキルを見直すきっかけにもなりました。さらに、カリキュラムの柔軟性や費用面からも、生産性向上支援訓練は受講しやすいと感じています。好評だった訓練は、オーダーコースでの展開や社内研修拡充の検討材料とさせていただきます。

受講者だけでなく、受講を検討している他の派遣エンジニアからも「今後はどんな研修があるのか」など問い合わせを受けることも増え、派遣エンジニアが身につけたいと感じているスキルの把握もしやすくなりました。これまでは限られた地域での利用でしたが、社内で認知が広がり、他の地域でも生産性向上支援訓練の利用検討が進んでいます。

受講者の声

手応えのある学習で業務改善が進展！

これまでなんとなく使っていたPower Automate、Access、PowerPointについて、基礎から体系的に学ぶことができ、とてもためになりました。特に操作の仕組みや考え方を理解できたことで、業務への応用の幅が広がりました。

Power Automateで定型作業の自動化を進めたり、Accessでデータ管理を整理したりと、業務の効率化に活かしています。

PowerPointも報告資料や説明資料の作成時に役立つと思います。今回学んだ内容をもとに、より実践的な使い方を身につけ、職場全体の作業改善や情報共有の効率化につなげていきたいと考えています。



(左：安東 様 右：阿部 様)

生産性向上支援訓練の成果

業務上必要なスキルの解像度が上がり、スキルアップに対して前向きに！

就業している派遣先での業務活用はもちろん、将来就きたい業務のイメージを持ち、キャリアアップしていく第一歩としてもいい機会になっています。また、当社のスキルアップ支援制度であるeラーニングでさらに学びを深めたり、資格取得支援制度を活用した資格取得のチャレンジなどにも繋がっています。

ハンズオンで学べることで普段の業務にもすぐに活用することができ、派遣先企業様からスキル面でご評価いただくことが多いです。自ら学ぶ姿勢がつくことで、業務の幅を広げるきっかけになっている方も一定数いらっしゃいます。

また、研修を通じて普段の業務や必要なスキルの解像度が上がり、スキルアップに対して前向きに取り組む従業員が増えています。

case
02

東芝プレジジョン株式会社 様

DX

バックオフィス

基本情報

所在地 福島県福島市ほか 従業員数 193 名
 事業内容 電気機械器具製造



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

DX化が浸透せず具体的な業務改善が得られない

- ・DX推進に取り組んでいるが、社内全体への浸透に課題
- ・DX化を推進していく上で、Power BIの有効性を広めたい



After

訓練で学んだツールを活用し業務時間削減！



- ・ツールの使い方だけでなく、データの整理や前処理の重要性を実感
- ・人手によるデータの集計時間や大量のデータの検索時間を削減

JEEDの提案

- ✓ 演習を取り入れた実践的なカリキュラム
- ✓ 他社の活用事例を取り入れ、客観的な視点を導入

■ コース名

089 データ活用で進める業務連携
 055 RPAを活用した業務効率化・コスト削減

■ 実施時期

- ・令和6年9月
- ・令和7年9月



事業主の声

RPAと可視化ツール導入で業務改善が本格化！

当社では、訓練受講以前から社内でDX推進に取り組んでいました。しかし、社内全体への浸透には課題があり、業務改善につながる具体的な成果には、まだ十分に至っていない状況でした。そうした中、ポリテクセンター福島よりご案内いただいた生産性向上支援訓練の活用を、令和4年度から始めました。

訓練を通じて、社内教育だけでは得られない多くの学びを得ることができました。他社のDX事例を知ることで、自社の取り組みを客観的に見直す視点が得られました。また、Power BIなどツールを活用する中で、社内課題の可視化と具体的な解決に取り組むことができたほか、RPAの活用により、業務改善につながる実践的な成果も得られました。

こうした新たな知識や技術の習得は、今後の業務に大きく役立つと感じております。訓練の受講後には社員の意識にも変化が見られ、自発的な行動が増えました。

全員参加で取り組んでいる当社独自の5S活動においても、今回学んだデジタルツールの活用が進んでいます。職場の5S活動だけでなく、各自が日常的に推進している業務の5Sも含めて、社内全体へ意識が浸透しています。

今後はDXに限らず、様々な課題解決に向けて、生産性向上支援訓練を継続的に活用していきたいと考えています。



技術管理担当グループ長
渡邊 様

受講者の声

周囲を巻き込んで取り組むことの重要性を知った！

私は現在、技術管理・知財関連・輸出関連の業務と併せて社内のデジタル化推進支援を担当しています。

当社の業務は人手による作業が多く、集計されたデータが十分に活用されていない状況が続いていました。また、データの共有も不十分であり、業務効率に課題を感じていました。

「データ活用で進める業務連携」をオーダーコースで受講したことをきっかけに、社内でBIツール活用のための全社横断的なワーキングチームを立ち上げ、令和6年10月から令和7年9月にかけて、全社的な定着化と自走化の推進に取り組みました。すべての部署での定着には至っていないものの、活用が進んだ部署ではデータの「見える化」が進み、一定の成果を上げることができています。

また、BIツールを活用する中で、データの整理や前処理の重要性を実感し、その手段としてRPAが有効であると感じました。特に、データの並べ替えや結合など、データベース形式への変換においてRPAは非常に効果的であると考えています。こうした背景から、令和7年9月に「RPAを活用した業務効率化・コスト削減」をオーダーコースで受講しました。この訓練を通じて、RPAが人手による作業やミスを減らすための有用なツールであると改めて実感するとともに、業務効率化に向けた効果予測や費用対効果の算出など、他の業務改善活動にも応用できる知識を習得することができました。単なるツールの使い方にとどまらず、改善活動全体を俯瞰する視点を得られたことは、今後の業務推進において大きな収穫です。

今後も、訓練で得たBIツールやRPAツールの知識を社内全体で活用し、DX推進と業務改善を継続して進めていきたいと考えています。



技術管理担当 梅津 様

生産性向上支援訓練の成果

訓練で学んだツールを活用し業務時間削減！

訓練で学んだツール(Power BI)を活用して、人手によるデータの集計時間や大量のデータの検索時間などの非生産的な時間が大幅に改善できました。

関連2部門(経理部と戦略企画部)において合計で年間18時間が削減され、生産性の向上を図ることができました。



case
03

みどり産業株式会社 様

DX

バックオフィス

組織マネジメント

データ活用

倫理・セキュリティ

基本情報

所在地 千葉県市原市 従業員数 220 名
 事業内容 廃棄物の収集運搬、リサイクル処理、中間処分業等



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before



研修の体系化や、PCスキル・AI活用力の向上が課題

- ・役職に応じた内部・外部研修を実施しているが、流れのある研修になっていない。
- ・AI(人工知能)やITを活用した業務改善を行いたい。

After

実務に直結するスキルを学ぶことで業務効率がアップ！

- ・AI(人工知能)や表計算ソフト(関数等)の訓練を受講し、知識を習得したことで、作業効率がアップ。
- ・研修の体系化により、社員のスキルアップを支援する体制づくりや、社員の意欲向上につながった。



JEEDの提案

- ✓ 実践的なITスキルが身に付き、受講者に合わせた段階的なカリキュラム
- ✓ 中堅層を対象に、「組織マネジメント」分野コースを一連の研修として実施

■ コース名

- 043 組織力強化のための管理
- 051 管理者のための問題解決力向上
- 094 AI(人工知能)活用
- 100 表計算ソフトを活用した業務改善
- 101 業務に役立つ表計算ソフトの関数活用 ほか

■ 実施時期

令和6年6月～9月、令和7年7月～11月



事業主の声

AI活用からExcel関数まで、実務力が大幅強化！

生産性向上支援訓練のオーダーコースは、講師と直接打ち合わせをすることができるので、会社の課題解決に即した訓練を構成することができました。さらに、オーダーコースを導入した事でAI活用スキルや表計算ソフトの関数の習得など、実務に直結するスキルを学ぶ機会となり、社員の継続的なスキルアップにつながりました。

生産性向上支援訓練は、利用しやすい受講料で、条件を満たせば人材開発支援助成金も活用できるので、非常に有効なものでした。

また、訓練を通じて社員の成長意欲が高まり、社内に前向きな変化が生まれました。

今後も、階層ごとのスキル習得を目的に継続的に訓練を実施していきます。



代表取締役社長 津根 頼行 様

受講者の声

演習型研修で業務効率化！



・演習を交えて訓練が行われたので、分からないことも聞きやすく、楽しく学びました。ワーク形式で周囲と教え合いながら進められたのが良かったです。表計算ソフトの訓練を受講し、関数を習得したことにより、作業効率がアップしました。また、AI知識を学び、資料作成時間が大幅に短縮されました。

・広報担当として、広報で作成する制作物のアイデア、レイアウトや文言等でAIを活用したいです。訓練で学んだことを業務に活かし、今後はさらに活用できる場面を見つけて効率化を進めたいです。



生産性向上支援訓練の成果

一連の研修としての訓練を行うことで、社員の意欲向上に繋がった！

基礎知識の習得から応用まで、社員のスキルアップを支援する体制づくりや、社員の意欲向上につながりました。



訓練の受講で業務効率がアップ！

AIの利用や表計算ソフト(関数等)の知識で業務効率が格段にアップしました。例えば、AIの活用により、広報物のレイアウトや文言を考える時間がおおむね20%は減っているように感じています。

社内でAI活用・利用が進んでいますが、訓練の受講者にはさらに詳しい活用方法を取り上げるコースを受講してもらったり、未受講者には基礎編のコースを受講してもらったりすることで、多くの社員がAIを活用した業務効率化に取り組んでいます。

case
04

株式会社ベガシステム 様

DX

バックオフィス

組織マネジメント

営業・販売

基本情報

所在地 東京都町田市ほか 従業員数 59 名
 事業内容 IT事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業 等



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

DX推進の体制づくりが必要



自社と顧客に対してDXを推進するにあたって、従業員の課題解決力や提案力の向上が必要

After

従業員の意識が変わる社内DXが促進

- ・SNSをリニューアル。フォロワー数は7倍に。
- ・社内DXの取組として「月一チャレンジ」を開始。課題や問題を社内で共有する意識を持った従業員が増えた。



JEEDの提案

- ✓ DXに関する基本的事項からの再学習。
- ✓ 提案力向上のため営業活動の基礎の学習を提案。

■ コース名

- 119 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
- 126 DX人材育成の進め方
- 117 DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入
- 027 マーケティング志向の営業活動の分析と改善

■ 実施時期

令和6年9月～12月



事業主の声

DXの基礎が身についた！社員間のコミュニケーションにも良い効果！

当社のIT事業部は、顧客からの相談を受けてシステム導入を支援する立場であるため、技術力だけでなく問題解決力や提案力が求められます。近年、DXという言葉が広く使われるようになり、デジタル技術の専門家として、正しい知識を身に着ける必要があると考え、生産性向上支援訓練のDXコースを受講することを決めました。

訓練ではDXの基礎を学び、他の企業の成功例や実際に使われているものを知ることができる等、体系的に学ぶ機会となりました。

DX導入とは単に業務効率化のためにシステムを導入するだけでなく使う人の意識を変えたり根本的な課題解決のために考えていくことであると従業員が理解しました。今後自社で実践し、さらにお客様や社会に還元していくことが当社の役割と考えています。

また、今回の訓練にはIT事業部全員が参加しました。訓練を通して、通常の業務内では話す機会のなかった従業員同士がお互いの考え方を知ることができ、従業員間のコミュニケーションにおいても良い効果が生まれました。

今後も生産性向上支援訓練を活用し、従業員には課題解決力や発想の柔軟性を身につけてほしいです。



マネージャー 鶴田 様

受講者の声

周囲を巻き込んで取り組むことの重要性を知った！

私はIT事業部門で、飲食店のオーダー端末のアプリケーション開発や、自社のホームページ・SNSの運営など広報業務を担当しています。

DXのコースでは、DXとは単なる作業のデジタル化ではなく、組織文化やライフスタイルの変革を伴うものであるということや、DXを推進するには周囲を巻き込んで継続的に取り組まなくてはならないと学びました。

社内のDX化については、小さなテーマに対して従業員全員で取り組むという風潮が変わったことから、不満や要望を早期に共有できる環境が整い、営業や提案もチーム全体で行えるようになりました。

また、マーケティングのコースでは、提案方法やプレップ法などの実践的な手法を学び、これらをお客様との認識合わせなど実際の業務に取り入れて活用しています。



受講者 田中 様

生産性向上支援訓練の成果

業務改善を目的とした「月一チャレンジ」の開始！ SNSのフォロワー数が7倍に！

社内DXの推進の一環として、訓練中に行った演習でまとめられた業務改善についての意見や提案内容を社内の目につく場所に掲示するとともに、その中から「月一チャレンジ」として毎月一つのテーマを設定し、全員で課題解決に取り組むようになりました。

当社のホームページ、SNSについて、マーケティング研修で学んだ手法を活かして、ターゲットである顧客を意識し、社内のリアルタイム性を持たせるなど工夫をしたりリニューアルを行ったことで、SNS(X、Instagram)のフォロワー数が7倍に増えました。

case
05

株式会社アスクテクニカ 様

生産管理

品質保証・管理

基本情報

所在地 山梨県西八代郡市川三郷町 従業員数 125 名
 事業内容 ガスケットシート、ブレーキライニング、産業機器向け
 ブレーキ、クラッチ等の製造販売



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before



今までのやり方で生産性向上を目指すのは困難



今の時代に見合ったDXやIoT等の新しい知識、技能を取り入れ
 生産性を向上させたいが、独学での習得は難しい

After

生産管理の基本の定着によって業務が効率化

- ・PDCAサイクルやQC7つ道具を活用し、不良低減、コストダウンを実現
- ・打ち合わせの活性化や部門をまたいだコミュニケーションが活発化



J E E D の提案

- ✓ 生産管理に関するオープンコースの紹介
- ✓ 全体で知識を共有するためのコースを計画

■ コース名

- 010 品質管理基本
- 002 生産現場の問題解決
- 048 ものづくりの仕事のしくみと生産性向上

■ 実施時期

令和6年5月、9～10月



事業主の声

研修を通じて現場の判断力と対応力がアップ！

課長・係長クラスの受講後、配下の従業員が想像以上に受講したことで、会社を良くしたい、現状を改善したいという意識が高まっていると感じています。

訓練後は、会議やミーティングでレベルの高い意見が活発に出るようになり、生産現場全体にも良い刺激になっています。

5Sについてこれまではぼんやりと理解していたものの、訓練で明確に教えていただいたことで、意味を理解した上で行動できるようになりました。

また、訓練テキストには品質についてわかりやすく記載されており、「品質とは何か」、「QC7つ道具」、「PDCAの回し方」など、現場対応に必要な知識を習得する上で大変役立っています。品質管理を怠れば顧客の信頼を失い、企業が成り立たなくなるという意識も強まり、品質がものづくりと不可分であることを再認識しています。

県内で訓練を受講できる点も大きなメリットです。受講者が発案者となり、工場内のレイアウト変更など現場改善の検討を進めるようになり、本質を理解して自主的に行動し、不良対策の打ち合わせを主導するまでに成長しています。

今後も、生産部を中心に生産性向上支援訓練を継続受講したいと考えています。



代表取締役社長 海宝 俊幸 様

受講者の声

品質や効率化への意識が向上！

訓練を通じて最も印象に残っている内容は「ムダを無くすこと」です。製品在庫をいかに減らし、業務をうまく進めるための方法を学ぶことができ、生産計画担当者との相談にも活用できると感じています。

また、これまで品質についてしっかり学んだことがなかったため、生産管理の基本を含めて一から理解することができました。特に、品質は顧客の信用と信頼に直結する非常に重要な要素であるという点が強く印象に残りました。

訓練を通じて、部門をまたいだコミュニケーションが活発になり、工程管理の朝礼ではその日に多かった不良案件の情報共有を行うなど、連携がより活性化しています。加えて、PDCAサイクルやQC7つ道具をうまく活用し、不良の軽減やコストダウンにつなげており、これらの手法を今後も業務改善に役立てていきたいと考えています。



生産性向上支援訓練の成果

訓練内容の活用で生産性アップ！

PDCAサイクルやQC7つ道具をうまく活用し、不良の低減やコストダウンにつながりました。



対応力の向上が人事評価につながった！

受講者が担当している製造担当の体制は、人員に限りがある状況でした。そのような状況下であっても、出荷製品にトラブルが発生した際には、営業担当を含めて顧客の要望を適切に取りまとめる対応ができるようになりました。

また、朝礼での情報共有など、部門をまたいだコミュニケーション力を高く評価しました。これらの点を踏まえ、受講者の昇格を推薦しました。

case
06

株式会社三重アロー 様

DX

マーケティング

組織マネジメント

営業・販売

基本情報

所在地 三重県四日市市 従業員数 22名
 事業内容 液化石油ガス設備及び機器販売事業、空調設備及び
 機器販売事業



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

営業先の新規開拓が必要



特定の取引先からの依頼で事業を継続できていたものの、
 資材高騰、賃金上昇等の影響で、新規開拓が必要な状況に。

After

意識改革により売り上げアップ！

- ・社員が自主的に顧客の要望をくみ取り、最適な営業提案が可能に
- ・社員の営業意識が醸成され、新規開拓件数や発注頻度が増加



JEEDの提案

1年目

・管理者のマネジメントスキルとコミュニケーションスキルの向上

■ コース名

061 職場のリーダーに求められる統率力の向上
 043 組織力強化のための管理
 058 現場社員のための組織行動力向上

■ 実施時期

令和5年8月～令和6年2月

2年目～

・営業未経験の社員が実務に活かせる内容を段階的に習得できるカリキュラム
 ・実際の業務に落とし込んで「考える」演習

■ コース名

030 実務に基づくマーケティング入門
 049 提案型営業手法
 121 ビジネスとSDGs（持続可能な開発目標）の融合

■ 実施時期

・令和6年6～10月
 ・令和7年1～2月
 ・令和7年7～8月

事業主の声

従業員の意識と行動が前向きに！

これまでは特定の取引先からの依頼で事業を継続できていたため、営業をしたことがありませんでしたが、資材高騰や賃金上昇等の影響により新規開拓が必要な状況になりました。営業手法に関するコースを受講した後は、自分たちの「売り」が明確になり、それを顧客に伝えていこう、提案していこうという意識が従業員の行動にも表れ、結果として新規の取引先が増加しました。

また、顧客には地場産業の企業が多く、地域貢献の意味でもSDGsを推進したいと考え、社内にSDGsワーキングチームを立ち上げ、若手社員が講師となり発信してきました。しかし、単なる知識習得ではなく業務との関係性を持たせる必要があると感じ、生産性向上支援訓練でプロの講師に来てもらい、事業活動において具体的にどう貢献できるかまとめてもらいました。

SDGsに関するコースを社員全員が受講したことで、自分たちのためだけでなく社会にも貢献したいという会社の方針が伝わり、業務と無関係だと感じていた社員の理解促進にもつながりました。訓練を効果的に活用するには会社としての重点項目を決め、その中に訓練を取り入れることが重要であり、受講意欲を盛り上げる工夫が必要だと感じています。

マーケティング受講後には自分たちでパンフレットを作成するなど成果物を出すことでモチベーションを維持しています。毎年テーマを決めて訓練を利用してきましたが、積極的に参加する社員、様子を見て途中から参加する社員、最後に付いてくる社員など様々であるものの、現在は社員全体の意識が醸成され「みんなでやろう」という良い状態になり、自社の見せたい姿が明確になってきました。今後は、アウトターブランディングも進めていきたいと考えています。



常務取締役 服部 友亮 様

受講者の声

訓練での学びが実務に直結！

講師が分かりやすく説明してくれたことで、自分の業務に置き換えて、具体的に何に取り組まなければいけないかを明確にすることができました。研修終了後もテキストを何度も見返して活用しています。

新規開拓にあたり、「実績がないのであれば、誠実さを見せるしかない。」という言葉が一番刺さりました。誠実さの一つはスピードであり、見積書を早く出すなど、顧客の要望に対し即行動できるようになりました。

また、訓練の受講によりSDGsと自分の業務の結びつきがはっきりしました。他部署の考えも分かり、自社の方向性が見えるようになりました。



生産性向上支援訓練の成果

最適な営業提案ができるようになった！

今までは「これ、できますか？」と顧客から聞かれた案件に応えるというやり方でした。訓練受講後は、従業員が自主的にニーズを考え、「弊社はこういうことができるが、どうですか？」と、会話のキャッチボールを行うことで、顧客にとって最適な営業提案ができるようになりました。

顧客の新規開拓に成功！既存の顧客も発注頻度増！

従業員の営業意識が醸成され、業務内容をどう分かりやすく伝えるかを話し合い、自分たちで一から構成やデザインまで考えたパンフレットを新たに作成しました。

また、自社ブランディングや地域貢献の視点を得たことから、設備や機器のメンテナンス講習の依頼を新規に引き受けることを決めました。

結果として、顧客の新規開拓や既存顧客の発注頻度増に繋がり、全体の売上高が5%程度増加しました。

case
07

株式会社イー・アール・ジャパン 様

生産管理

組織マネジメント

基本情報

所在地 広島県福山市 従業員数 88 名
 事業内容 情報通信機器再商品化、使用済み家電製品の
 中間処理



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

誰もが安全に働けるような安全教育が必要

- ・障がいの有無にかかわらず、誰にとっても安心・安全な職場にしたい
- ・生産効率や従業員同士の連携を高めたい



After

5S※推進の重要性を理解し実践！



- ・ヒヤリハットの発生を抑止する現場づくりを推進
- ・ムリ・ムラ・ムダを減らして仕事を効率化

※5S…整理、整頓、清掃、清潔、習慣(しつけ)

JEEDの提案

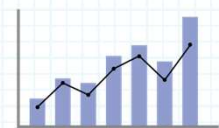
- ✓ 5Sについて、基本に忠実に訓練を実施
- ✓ 現状と改善点を明確にするためのカスタマイズ

■ コース名

- 001 生産性分析と向上
- 058 現場社員のための組織行動力向上
- 061 職場のリーダーに求められる統率力の向上

■ 実施時期

令和6年2月、令和7年9～11月



事業主の声

5Sの推進により意識改革に成功！生産性も向上！

当社は2012年4月に設立し、2014年1月から小型家電リサイクルプラントを稼働させています。

現在、従業員88名のうち構成比36.4%にあたる32名が障がい者であり、障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。

工場稼働年数では11年と浅く、これまで管理監督者を対象としたマネジメント研修を実施したことはありませんでした。経験豊富な数名のリーダーによって操業を支えてきましたが、工場の安全運行を第一とした上で、事業を拡大するために、生産効率を高め、従業員同士の連携を強めたいと考えていました。そんな時に生産性向上支援訓練を知りました。



代表取締役 乗常 久志 様

5Sの訓練を受講する事によって、職場内の整理整頓が進み、課題の早期発見も可能となりました。一番の効果は従業員の意識改革が出来たことだと思います。5S推進の重要性を理解し、日々の業務の中で実施できていることが、生産性向上と事業拡大につながっていると感じています。

受講者の声

品質や効率化への意識が向上！



受講者 久保坂 様

5Sの重要性や割れ窓理論、ハインリッヒの法則などを学び、職場を常に綺麗に保つ環境に努めています。作業効率を上げるためにラインテープを引いて通路を確保する等、社員全員が同じルールと意識を持ち生産性向上に努めています。

また、ヒヤリハットが起こる事が無いよう発生抑止に努め、誰もが安心して働ける職場づくりに努めていきたいと思っています。

生産性向上支援訓練の成果

ムリ・ムラ・ムダを減らして業務効率化！

訓練後、当社では『連携強化による業務運営と効率化』を経営スローガンに掲げ、ムリ・ムラ・ムダを減らして仕事の効率化を推進しています。生産性向上支援訓練で学んだ事を職場全体で実践するための体制を構築し取り組んでいます。

また、障がいのある従業員の職場環境を考え、環境の整備、ジョブコーチ資格者も1名から4名に増員し、働きやすい職場・雇用を推進しています。

現場では基本に忠実に、安全・安心な職場の姿を実践する体制として、レイアウト・作業手順、作業場の見直し・改善をおこなうことで、生産性向上をはかっています。

5Sと経営スローガンを工場内や会議室へ掲示したり、工場内の整備状況を写真に撮ったうえで点検巡回するなどの可視化も積極的に進めており、目標と実績が確認できる体制としました。



case
08

株式会社香川県中央自動車学校 様

DX

バックオフィス

情報発信

基本情報

所在地 香川県高松市ほか 従業員数 35 名
 事業内容 自動車教習、各種講習、フォークリフト運転技能講習、ドローンスクール



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

マネジメント分野だけでなく事務作業や広報分野も強化したい



継続的な利用により管理職層の意識改善がみられるが、事務作業にかかる時間や広報コンテンツの不足が課題

After

生成AIの効果的な活用で作業時間短縮！

- ・文書作成、教習で話す内容のまとめ、文字起こしなどで生成AIを活用し、作業時間を短縮。
- ・SNSで広報物を掲載する頻度が格段に増え、フォロワー数も増加。



JEEDの提案

- ☑ AIの基本や業務で活用できるAIについての理解促進
- ☑ SNSサービス活用のための仕組み・ルール作り

■ コース名

094 AI（人工知能）活用
 114 SNSを活用した情報発信

■ 実施時期

- ・令和6年5月
- ・令和7年6月



事業主の声

生成AIの活用で業務改善を後押し！SNSによる広報も活発に！

当社が生産性向上支援訓練を受講した理由は、従業員の意識改革を図るためです。社内でも勉強会を行っていましたが、外部講師による訓練の方が、より深い理解と定着につながると考えています。一般的に外部研修は費用のハードルがありますが、生産性向上支援訓練は費用面でも実施しやすいため、継続的に利用しています。

これまでは、主にマネジメント分野のコースを受講してきました。しかし現在は、特に事務作業にかかる時間や広報コンテンツの不足が課題であると感じ、数あるカリキュラムの中でも実践的なスキルを習得できる「SNSを活用した情報発信」や「AI(人工知能)活用」の受講を決めました。

SNSのコース受講後には広報チームを組んだり、AIのコース受講後は有償版の生成AIを導入したりと、訓練で学んだことを取り入れ、実務に活用できています。訓練を受講した従業員は、習ったことに前向きに取り組んでおり、スキルの向上だけでなく、仕事に取り組む姿勢が変わったように思います。業務の新しいアプローチを学び、挑戦するきっかけを得たことも理由の一つだと思います。

SNSやAIのコースを受けて得た成果は、業務改善の一面だけでなく、従業員が改善に取り組むきっかけとその意識づくりになったことでもあると思います。今後は訓練で学んだことをさらに発展させて、より確かな成果を得られるよう活用していきたいと思っています。



営業部長 矢野 様 副校長 山下 様

受講者の声

周囲を巻き込んで取り組むことの重要性を知った！

これまで、日々の業務に含まれる非効率性や、業務量の多さに課題を感じていました。部署内にはそれぞれ担当業務がありますが、個人で完結する業務も多く、どうしても負担が偏りがちです。業務量を効率的に進め、負担を減らす手段として、生成AIを活用することに可能性を感じました。

電話相談や関係会社とのやりとりでは、的確な返信が求められ、1件の対応にも時間がかかります。生成AIを活用することで、自分では思いつかない視点からのアドバイスが得られ、業務の質とスピードの向上につながりました。

見積もりの比較ができる点も非常に有用でした。単なる金額の比較だけでなく、リース契約とローン契約の違いや、どちらが会社にとってメリットがあるかといった視点で、自分に合った回答が得られる点が魅力です。

ネット検索とは異なり、自分の要望に対して的確で具体的な回答が得られるため、課題解決までのスピード感が違います。1人で担当している業務は相談できる相手が限られますが、そんな中でAIはよき相談相手のような存在です。

訓練を通じて、生成AIの活用が今後の仕事のあり方を大きく変えていく可能性を感じました。今では誰もが使うようになったパソコンのように、生成AIも実践的に使わなければ取り残されるという危機感を持ちました。動画などで使い方を学ぶこともできますが、対面で講師の先生から直接説明を受けることで、理解度が大きく高まったと感じています。

今後は、生成AIを活用しながら少数人数でも効率的に業務に取り組み、労働時間の短縮で心身ともに健康に楽しく働ける会社を作っていきたいです。

生産性向上支援訓練の成果

生成AIを活用し、作業時間を短縮！

今までは無料の生成AIを使用していましたが、研修を受けて有償の生成AIを契約しました。お礼状や議事録をはじめとした文書作成、また教習で話す内容のまとめや文字起こしなどでも活用しています。作業時間は半分をはるかに上回るレベルで短縮され、劇的なスピードアップに繋がっています。

積極的なSNS活用でフォロワーが3倍に！

研修を通してSNSが身近な存在として感じられるようになり、受講前後で比較して、SNSで広報物を投稿する頻度が格段に増えました。また、投稿数が増えたことから、SNSのフォロワー数は3倍以上に増加しました。現在は、受講者以外の社員も含めてチームを組み、広報に取り組んでいます。

今後はさらにスキルを身に付け、訓練での学びを発展させて業務に活かしていきたいと思っています。

case
09

トーショー九州株式会社 様

組織マネジメント

基本情報

所在地 大分県大分市 従業員数 118 名
 事業内容 一般貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業、
 産業廃棄物収集運搬事業、倉庫業



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

安全教育は重視してきたものの、事務業務に課題



- ・計画的な階層別研修などの体系的な取り組みがなく、見直しが必要
- ・事務業務に不慣れな社員に集合研修の機会を設けたい

After

業務の優先順位を考えられるように！

- ・時間管理のスキルを習得したことで、業務の優先順位を明確にし、効率的に仕事を進められるように。
- ・書類の多さを課題として認識し、データ共有等を通じたDXへの意識が向上。



JEEDの提案

- ☑ 組織マネジメント面の強化
- ☑ 階層別に意見交換ができるグループディスカッションの実施

■ コース名

- 041 業務効率向上のための時間管理
- 058 現場社員のための組織行動力向上
- 127 物流現場のリーダー育成

■ 実施時期

令和6年6月、7月、9月



事業主の声

集合研修で事務スキルと連携力を強化！



本社管理部 部長 H 様

当社では安全教育を重視し、これまで全社員を対象とした集合研修を継続的に実施してきました。特に、ドライバー職を経験した後に管理部門の事務職へ異動する社員が多く、事務業務に不慣れな社員が一定数いることから、集合研修の必要性を強く感じていました。

新たな研修の必要性を強く感じていたときに、生産性向上支援訓練のオーダーコースを知りました。当社の課題に即したカスタマイズ可能なカリキュラムに魅力を感じ、受講を決定しました。

集合研修を通じて、受講者間での情報共有が促進され、「優先順位をつけて仕事を進める力」が身につきました。その結果、残業時間の削減、リーダーシップの向上、業務改善、営業所間の連携強化など、職場全体に少しずつですが好影響が現れています。

今後も継続的に生産性向上支援訓練を活用し、社員のスキル向上と職場環境の改善に努めていきたいと考えています。

受講者の声

優先順位を意識して業務がスムーズに！

私の部署は総務部で給与計算や社会保険の業務を担当しています。

今回の訓練では、時間管理の重要性や業務の優先順位の付け方を学び、日々の業務にすぐに活かすことができました。特に「今、何を優先すべきか」を意識して行動するようになり、業務の進め方が大きく変わりました。

今後は、紙ベースの業務をデジタル化し、より効率的な働き方を目指していきたいと思っています。



総務部 T 様

生産性向上支援訓練の成果

現状を認識し、DXへの意識が向上！

書類の多さを課題として認識したことで、データ共有等を通じたDXへの意識が高まりました。今後はデジタル処理への移行を目指し、さらなる業務効率化を図ってまいります。

業務の優先順位が明確になり、仕事が効率化！

時間管理のスキルを習得したことで、業務の優先順位を明確にし、効率的に仕事を進められるようになりました。その結果、残業時間が減少し、社員の働き方改革にもつながりました。訓練を通じて職場の雰囲気も改善され、社員が前向きに業務へ取り組む姿勢が定着しました。さらに、県外営業所とのコミュニケーションが活発になり、業務の円滑化が進んでいます。



case
10

株式会社高山産業 様

DX

生産管理

基本情報

所在地 鹿児島県始良市 従業員数 395 名
 事業内容 電子部品製造業



■ 訓練利用のきっかけと成果

Before

人手不足の深刻化により業務のDX推進が必要



DX推進を図ることによって、**人手に頼った作業や**
ボトルネックを解消し、効率的な生産体制を構築したい。

After

働き方の変革がDX推進の本質だと気づいた！

- ・DXの本質が、企業文化や働き方の変革にあると気が付いた。
- ・システム化する前の段階として、製造現場で発生する様々な事象をデータ化していく機運が高まった。



JEEDの提案

- ✓ 製造現場にスポットを当てた段階的なDX推進
- ✓ 事業所の現状を踏まえ、グループワーク演習を強化

■ コース名

129 製造分野におけるDX推進

■ 実施時期

令和7年2月



事業主の声

DX導入を見据え、業務をデジタル化！

当社は、電子機器用に使用される電子部品の製造・検査を主体とした事業を行っています。

人材不足が課題となっている中、DX推進を図ることによって、人手に頼った作業の削減やボトルネックの解消により、効率的な生産体制を構築し、その結果、企業価値の向上につながればと考え、生産性向上支援訓練を受講しました。

訓練では、DX推進に至るまでの流れを実例をあげて教えてもらいました。受講者も理解しやすく、当社での展開にあたって、参考となるものでした。

また、DX推進におけるシステム化が急がれる状況ではありますが、その前に、製造現場における業務を可能な限りデジタル化していくことが重要であることを認識しましたので、今後は、これらに注力していきたいと考えています。



代表取締役 田畑 翼 様

受講者の声

DX推進のために何が必要なのかが理解できた！

DXという言葉を知ると、新しいシステムやAIの導入を想像していましたが、それだけではなく、ビジネスプロセス全体を見直し、企業文化や働き方の変革が本質だと気づきました。

訓練では、設備の改善活動などに役立つ内容もあり、例えばフットスイッチを利用し、データ収集を実際に行ってみたくて思いました。

また、4M情報の見える化の実例を学び、当社で導入できれば、稼働状況や納期対応もスムーズに処理できるのではないかと思いました。



生産性向上支援訓練の成果

業務のデータ化により生産性がアップ！

売上については、訓練後半年間で前年比+15%アップ、売上計画に対しては、達成率110%となっています。一人当たりの売上計画に対しても、達成率112%となっています。

訓練利用による成果や影響について、製造現場で発生する様々な事象をデータ化していく機運が高まり、システム化への足掛かりとなってきています。



生産性向上人材育成支援センター設置施設一覧

都道府県	施設名(所在地)	電話番号	都道府県	施設名(所在地)	電話番号	
北海道	ポリテクセンター北海道(札幌市西区)	011-640-8822	愛知	ポリテクセンター中部(小牧市)	0568-79-0511	
	ポリテクセンター旭川(旭川市)	0166-48-2412		〃 名古屋事務所(名古屋市中区)	052-221-8754	
	ポリテクセンター釧路(釧路市)	0154-57-8114		〃 名古屋港湾労働分所(名古屋市港区)	052-381-2775	
	ポリテクセンター函館(函館市)	0138-52-0323	三重	ポリテクセンター三重(四日市市)	059-321-3171	
	北海道ポリテクカレッジ(小樽市)	0134-62-3553		ポリテクセンター伊勢(伊勢市)	0596-37-3121	
青森	ポリテクセンター青森(青森市)	017-777-1234	滋賀	ポリテクセンター滋賀(大津市)	077-537-1164	
	ポリテクカレッジ青森(五所川原市)	0173-37-3201		ポリテクカレッジ滋賀(近江八幡市)	0748-31-2250	
岩手	ポリテクセンター岩手(花巻市)	0198-23-5354	京都	ポリテクセンター京都(長岡京市)	075-951-7391	
宮城	ポリテクセンター宮城(多賀城市)	022-362-2253		ポリテクカレッジ京都(舞鶴市)	0773-75-4340	
	秋田	東北ポリテクカレッジ(栗原市)	0228-22-2082	大阪	ポリテクセンター関西(摂津市)	06-6383-0949
ポリテクセンター秋田(潟上市)		018-873-3177	近畿ポリテクカレッジ(岸和田市)		072-489-2111	
山形	ポリテクセンター秋田(大館市)	0186-42-5700	兵庫	ポリテクセンター兵庫(尼崎市)	06-6431-7276	
	ポリテクセンター山形(山形市)	023-686-2225		ポリテクセンター加古川(加古川市)	079-431-2516	
福島	ポリテクセンター福島(福島市)	024-534-3637		ポリテクカレッジ神戸港(神戸市中央区)	078-303-7325	
	ポリテクセンターいわき(いわき市)	0246-26-1231	奈良	ポリテクセンター奈良(橿原市)	0744-22-5224	
	ポリテクセンター会津(会津若松市)	0242-26-0515		和歌山	ポリテクセンター和歌山(和歌山市)	073-461-1531
茨城	ポリテクセンター茨城(常総市)	0297-22-8800	鳥取	ポリテクセンター鳥取(鳥取市)	0857-52-8781	
	〃 水戸事務所(水戸市)	029-221-1188		ポリテクセンター米子(米子市)	0859-27-0111	
栃木	ポリテクセンター栃木(宇都宮市)	028-622-9497	島根	ポリテクセンター島根(松江市)	0852-31-2800	
	関東ポリテクカレッジ(小山市)	0285-31-1711		ポリテクカレッジ島根(江津市)	0855-53-4567	
群馬	ポリテクセンター群馬(高崎市)	027-347-3333	岡山	ポリテクセンター岡山(岡山市北区)	086-241-0067	
埼玉	ポリテクセンター埼玉(さいたま市緑区)	048-882-4079		中国ポリテクカレッジ(倉敷市)	086-526-0321	
	ポリテクセンター千葉(千葉市稲毛区)	043-422-2224	広島	ポリテクセンター広島(広島市中区)	082-245-0267	
	ポリテクセンター君津(君津市)	0439-52-0219		ポリテクカレッジ福山(福山市)	0849-23-6391	
	千葉	ポリテクカレッジ千葉(千葉市中央区)	043-242-4166	山口	ポリテクセンター山口(山口市)	083-922-1948
		ポリテクカレッジ千葉 成田校(成田市)	0476-22-4351	徳島	ポリテクセンター徳島(徳島市)	088-654-5101
高度ポリテクセンター(千葉市美浜区)		043-296-2580	香川		ポリテクセンター香川(高松市)	087-867-6855
東京	東京支部(墨田区)	03-5638-2280	四国ポリテクカレッジ(丸亀市)	0877-24-6290		
神奈川	ポリテクセンター関東(横浜市旭区)	045-391-2818	愛媛	ポリテクセンター愛媛(松山市)	089-972-0334	
	ポリテクカレッジ横浜港(横浜市中区)	045-621-5999		高知	ポリテクセンター高知(高知市)	088-833-1085
新潟	ポリテクセンター新潟(長岡市)	0258-33-2420	ポリテクカレッジ高知(香南市)		0887-56-4111	
	ポリテクカレッジ新潟(新発田市)	0254-23-2168	福岡	ポリテクセンター福岡(北九州市八幡西区)	093-641-4906	
富山	ポリテクセンター富山(高岡市)	0766-22-2738		〃 福岡事務所(福岡市中央区)	092-738-8875	
	北陸ポリテクカレッジ(魚津市)	0765-24-5552		ポリテクセンター飯塚(飯塚市)	0948-22-4018	
石川	ポリテクセンター石川(金沢市)	076-267-0801	九州ポリテクカレッジ(北九州市小倉南区)	093-963-0125		
	ポリテクカレッジ石川(鳳珠郡穴水町)	0768-52-1323	佐賀	ポリテクセンター佐賀(佐賀市)	0952-26-9497	
福井	ポリテクセンター福井(越前市)	0778-23-1010	長崎	ポリテクセンター長崎(諫早市)	0957-22-5471	
山梨	ポリテクセンター山梨(甲府市)	055-241-3218		ポリテクセンター佐世保(佐世保市)	0956-58-3118	
	長野	ポリテクセンター長野(長野市)	026-243-1001	熊本	ポリテクセンター熊本(合志市)	096-242-0391
ポリテクセンター松本(松本市)		0263-58-2905	ポリテクセンター荒尾(荒尾市)		0968-62-0179	
岐阜	ポリテクセンター岐阜(土岐市)	0572-54-3161	大分	ポリテクセンター大分(大分市)	097-522-2171	
	〃 岐阜事務所(岐阜市)	058-265-5801		宮崎	ポリテクセンター宮崎(宮崎市)	0985-51-1511
	東海ポリテクカレッジ(揖斐郡大野町)	0585-34-3600	ポリテクセンター延岡(延岡市)	0982-37-0675		
静岡	ポリテクセンター静岡(静岡市駿河区)	054-285-7185	鹿児島	ポリテクセンター鹿児島(鹿児島市)	099-254-3752	
	ポリテクカレッジ浜松(浜松市中央区)	053-441-4444		ポリテクカレッジ川内(薩摩川内市)	0996-22-2121	
				沖繩	ポリテクセンター沖繩(中頭郡北谷町)	098-936-1755
				沖繩ポリテクカレッジ(沖繩市)	098-934-6282	

実施している訓練メニューは施設により異なります。詳しくは各施設までお問い合わせください。また、各施設のホームページにおいても事業主支援情報を掲載していますので、あわせてご覧ください。

ポリテクセンター〇〇



※施設名を入れて検索してください。



JEED
らしく、はたらく、ともに

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers